

JAPAN & HK TSUNAGARU DESIGN PROJECT

滋賀大学、香港恒生大学、香港教育大学の学生 45 名が、日本万国博覧会記念基金事業助成金を受けて、「新しいアジアの教育」をテーマに 2022 年 5 月から月 1 回のオンラインでのディスカッションを始め、12 月に香港教育大学の学生が滋賀大学を訪問し、2023 年 2 月には滋賀大学の学生 15 名が香港を訪問しました。（学生の学年は 2 月時点）

10 ヶ月間、日本と香港という違った言語、違った生活環境で育った学生と一緒に考え、相手にどうわかりやすく伝えるか、理解して貰えるかを考える機会になり、「もっとお互いを知りたい」という気持ちが膝をつき合わせた深い交流に繋がりました。

12 月滋賀大学で香港教育大学の学生 15 名を迎えたグループディスカッションには滋賀県立守山高校 1 年生 4 名と教員も参加し、2 月 17 日 18 日の香港恒生大学で行ったグループディスカッションは、香港中文大学の学生、保良局李城壁中學・大坑東匯基書院（高校生）の生徒 9 名の 69 名が参加し、合わせて 128 名（国内 27 名、香港等 101 名）が参加する大きなプロジェクトとなりました。

1. オンライングループディスカッション（2022 年 5 月-11 月）

プロジェクトに参加した香港の学生は日本語を学ぶ学生でしたが、N1 の日本語能力を持つ学生もいれば、日本語を学び始めた学生もいましたので、滋賀大学 15 名、香港恒生大学 12 名、香港教育大学 16 名（計 43 名）は、日本語、日本語+英語、英語と 3 のグループに分かれて、「新しいアジアの教育について」グループディスカッションを行いました。

自主的に参加したために同じ大学でも初めて会ったという学生がほとんどでしたが、オンラインでマスクをする必要もなく表情が見えたこともあり、回数を重ねる度に積極的に発言するようになってきました。

2. 香港教育大学の滋賀大学訪問（2022 年 12 月 17 日-19 日）

香港教育大学の学生 15 名と教員 1 名が、滋賀大学を訪問して行なった 2 日間のグループディスカッションにはユネスコスクールの滋賀県立守山高校 1 年生 4 名も参加しました。最初に、香港教育大学経済金融学 5 年の花重錦さんが香港の教育制度についてのプレゼンテーションを行い、英語 1 グループと日本語+英語 3 グループに分かれて、「新しいアジアの教育を考える」から、何をテーマにするかを考え、2 日目は「STEAM 教育」など決めたテーマについて話し合いを行いました。オンラインで顔なじみの学生たちは、直ぐに仲良くなり、積極的に意見を交えることが出来ました。3 日目の滋賀大学教育学部附属小学校見学は、コロナウイルス感染防止のために廊下から見学となりましたが、香港の学生たちが一番驚いたのは生徒たちの自由研究の発表が書かれたポスターでした。教育学部の授業見学で

は、「初等国語教育」の授業に参加して、初めての俳句に取り組むことになり、香港で教師となる学生には教科書で学べない機会となりました。



グループディスカッション



教育学部授業



香港教育大学学生の俳句

■ 香港教育大学美術学3年 屈泳岐さんの感想

滋賀大学との交流は貴重な経験でした。滋賀大学でのディスカッションは2日間でしたが、実際に会ってディスカッション出来たことで、更に深く香港と日本の教育の違いや教育について色々な考えがあることを認識できて、もっと教育について詳しく調べてみたいと思いました。また、初めての日本語でプレゼンテーションは貴重な経験になりました。滋賀大学の皆さんもすごく親切で、滋賀県や日本での生活についていろいろ教えて頂きました。附属小学校の見学はとても面白く、ドラマやアニメに見ていましたが、実際に見るのは初めてで、生徒たちは私たちを見ると挨拶してくれ、とても元気で、礼儀が正しいと思います。学内は綺麗で、壁に作品や宿題やポスターなど貼ってあり、生徒たちが何を勉強しているか知ることが出来ました。香港とは違い、宿題と活動は香港より自由度が高いと思います。

教育学部の授業参加も貴重な体験でした。私に一番驚いたのは、香港ではパソコンかタブレットを使うのに、日本の学生たちが手書きノートを使うことが多いことです。授業に対してとても真剣で、先生の質問もちゃんと答えますので、クラスの雰囲気がとても良いと思います。そして先生の解説もとてもわかりやすく、私にもちゃんと理解出来ました。

3. 滋賀大学 香港訪問（2023年2月17日-22日）

5日間の短い滞在でしたが、プログラムは、香港での日本語教育の草分け的な香港日本文化協会日本語講座で中学生クラス・小学生クラスでの交流、香港恒生大学でのグループディスカッション、在香港日本国総領事館での岡田健一大使との懇談、知的障害者作業場の匡智馬頭角工場の見学、香港貿易発展局での研修、香港日本人学校大埔校・インターナショナルスクールの見学と充実しており、コロナ禍で初めて海外旅行に来た学生も多くいましたが、香港の学生交流だけでなく、香港と日本の繋がり、日本語教育、障害者問題など、幅広く香港社会を知る貴重な初の海外体験の機会となりました。

【香港訪問スケジュール】

日	内容
17日(金)	◆ 16:40-18:15 香港日本文化協会 日本語を学ぶ中学生との交流
18日(土)	◆ 10:30-16:00 JAPAN & HK TSUNAGARU DESIGN PROJECT 1日目 会場 香港恒生大学 何善衡教學大樓 D204 教室他 参加学生：香港恒生大学、香港教育大学、香港中文大学、香港の高校生
19日(日)	◆ 10:30-16:00 JAPAN & HK TSUNAGARU DESIGN PROJECT 2日目
20日(月)	◆ 11:00 在香港日本国総領事館 岡田健一大使との懇談会 ◆ 14:00 香港教育大学 学生交流 ◆ 16:00 Hong Chi Ma Tau Kok Workshop(匡智馬頭角工場)知的障害者作業場 見学
21日(火)	◆ 09:30-10:30 香港貿易發展局 香港の役割について ◆ 13:00-14:00 香港日本人学校大埔校 授業見学

(1) 香港日本文化協会

日本語を学ぶ中学生クラス(9名)では、滋賀大学の学生紹介と中学生の自己紹介を行い、次に教育学部4年萩原希泉さんが滋賀大学の紹介を行いました。その後に、中学生クラスと小学生クラス(14名)で、学生達が分かれて生徒と自由に話をしました。英語と日本語を交えての会話でしたが、初めて外国の子ども達と話したことで、香港の子ども達の語学教育の高さに驚いた学生が多くいました。



中学生クラスでの全体写真



小学生との交流(14名)



中学生との交流(9名)

■ 教育学部4年 都志柚奈

香港の小学生や中学生と交流した中で2つ気づいたことがありました。1つ目は子ども達と関係を築いていくには共通の話題を持つことが大切であり、その話題もいくつかあると望ましいと感じたことです。そのためにも、教師になったときに備えて、いろいろな本や場所に行ったりしながら情報を集めておこうと思いました。2つ目は誉めることの大切さに改めて気づきました。「日本語上手だね」と伝えた後から、自信を持って話し出した子を見て、国籍に関係なく、褒められることは子ども達にとって自信につながるのだと感じました。

(2) 香港恒生大学でのグループディスカッション

2月18日(土)、19日(日)に、滋賀大学15名、香港恒生大学15名 香港理工大学1名、

香港教育大学 24 名、香港中文大学 5 名、保良局李城壁中學・大坑東匯基書院（高校生）生徒 9 名の 69 名が参加しました。プログラムは、プロジェクトの狙いと 2 日間の進め方の説明のあと、在香港日本国総領事館西野広報文化部長、香港恒生大学社会科学部高朗学部長の挨拶があり、滋賀大学教育学部 4 年都志柚奈さんが日本の教育についてプレゼンテーションを行い、1 日目は英語 2 グループ、日本語+英語 7 グループに分かれて、「新しいアジアの教育を考える」から、それぞれのグループでテーマを絞り込む話し合いを行いました。休憩時間には剣道部の山本拓人さんが剣道教室もありと真剣な討議の中でも交流を深めました。2 日目は、一人の架空の生徒への教育をどうすべきかを考え、最終発表を行いました。



1 日目全体写真



1 日目グループ発表



グループ写真



休憩時間の剣道教室



2 日目全体写真

■ 教育学部 3 年山本拓人

ディスカッションの中での意見で、日本では道徳などの倫理観を授業で学ぶ機会を得ているのとは対照的に、香港では道徳教育がありません。一方で、香港では言語教育が進んでいます、日本では母国語以外の言語教育はあまり出来ていません。こうした違いは、非常に興味深いトピックでした。

(3) 在香港日本国総領事館 岡田健一大使との懇談会



出席：岡田健一大使、西野広報文化部長、伊部領事

本事業においてご助力頂いた在香港日本国総領事館を訪問し、岡田健一大使から大使や総領事館としての役割をお聞きしました。学生からの質問が多く、予定時間の30分以上オーバーしました。

■ 教育学部3年佐藤拓海

大使の役割を知らなかったが、国と国を繋ぐためにとても重要な役割を果たしていることを知った。今回のプロジェクト全体を通して、他国との交流の楽しさや刺激をすごく感じたので大使のように国と国を繋ぐ職種に興味を持った。自分も何かしらの形で他国と関わりをもち、日本だけにとどまらずに働きたいと感じた。

(4) 香港教育大学訪問



参加者 滋賀大学15名、香港教育大学12名

短い時間でしたが、ランチタイムを利用した学生交流となりました。

(5) 匡智馬頭角工場（知的障害者作業場）見学



参加者 滋賀大学15名 香港恒生大学3名、香港教育大学6名

教育に関わる中で障害者の問題もあります。日本でも障害者施設を見る機会は少ないのですが、今回、100人を超える障害者作業場を見せて頂けることになり、急遽、予定を変更して訪問しました。ここでは、障害者の能力の試験を定期的に行い、能力にあった仕事を与えて、仕事をする楽しさを教えています。学生達は、そのシステムの良さに驚きながらも、

日本と同様、賃金に問題があることを考えることになりました。

■ 教育学部 1 年佐藤志穂

福祉施設の見学はしたことがなく貴重な経験だった。雇用を生み出すために、営業をされているスタッフの方の話を聞き感銘を受けた。ただ、雇用は生み出されても、障がいを持っての方に支払われる給料は非常に安く、給料を上げるための資格試験も年に 1 回しか行われななど、厳しい現状を目の当たりにした。これは日本でも問題になっており、国からの支援金を増やすように働きかけるなど、解決策を見出していかなければならない課題だと考えた。

■ 経済学部 3 年森本夏帆

障がい者に各能力に応じて仕事・賃金を提供するといったシステムに感動しました。また、障がい者が物凄く生き生きと仕事をしている様子、支える施設のスタッフの様子に感銘を受けました。出勤チェックに色を使用していたり筋肉量によって仕事を変えるなどの工夫がとても印象に残っています。施設数・賃金等を聞いて、施設に入れられない方もいれば、低賃金・悪条件の中働いている方もいる現実も感じました。

(6) 香港貿易発展局 香港と日本の貿易関係について研修



香港貿易発展局 Andrew Tsui 課長より説明を受けました。

日本から世界に輸出される食品は香港が一番多く、日本にとって香港はアジアのゲートウェイの役割を担っています。貿易に限らずこうした役割を知るために、香港貿易発展局で一带一路を担当する Andrew Tsui 課長を訪問しました。

■ データサイエンス学部 4 年加藤敦詞

日本と香港の貿易の関係の中で香港の役割として、日本の商品やサービスをアジアに拡大するための仲介役を行なっている。日本の企業は、国内でシェアを拡大する一方で世界には拡大しきれない企業は多くあるだろう。そのきっかけとして、香港のシェアやアジアへ拡大することはとても大切であると思う。より日本の製品が世界に届くようになってほしい。

(7) 香港日本人学校大埔校 見学



香港の中学（高校）を見学する予定で数校の交渉を行いました但コロナウイルス感染防止から断れ、香港日本人学校大埔校に見学を依頼しました。同校は日本人学校とインターナショナルスクールを併設していますが、香港日本人学校の教師は文部科学省からの派遣になります但現地採用の先生もいて、私立学校となるため日本の学校とは違う雰囲気があり、訪問した学生たちは非常に熱心に見学を行いました。また 1 年生のクラスでは授業に少し参加したり、3 年生のクラスでは小学校の時に珠算全国 1 位になった経済学部 4 年北村瑠衣さんがフラッシュ暗算と算盤のデモンストレーションを行い、生徒から凄く驚かれたりと生徒との交流も行えました。

■ 経済学部 3 年北村瑠衣

日本人学校を訪問して、世界各地で頑張っている子供たちに会えたことがとても嬉しかったです。昨年アルゼンチンの日本人学校にお世話になりましたが、そこは生徒数が少なかったためアットホームな雰囲気を感じましたが、香港日本人学校では生徒の人数も施設も非常に大きくとても活発な雰囲気で学校によって色があるなと感じました。授業見学に関して日本人学校では 1~6 年生までの授業を見学させて頂きましたが、日本の学校で学ぶ生徒に比べて全員が積極的に意見交換をしている印象を受けました。また私の算盤をはじく様子とフラッシュ暗算を披露することができて、少しでも学ぶ意欲や日本文化への興味を持ってもらえたらと思います。インターナショナルスクールでは国語や算数といった基礎学力よりも創造力や想像力を養う授業をされており、1 日で教育方法の違いを感じられたことが面白かったです。

■ データサイエンス学部 4 年逢坂安曇

全学年のクラスの授業を見せて頂きましたが、英語と日本語を混ぜて喋っているクラスだったり、どんな見た目の人がいても気にしないという環境で学べるというのはすごくいいことだと思いました。また、温水プールでの水泳の授業や毎日 1 時間英語の授業があったりと、公立では経験できないような体験ができるのが良いと思いました。他校との交流として、ビデオレターを作成しているクラスがあり、自分たちで動画編集をしていると聞いてとても驚きました。今回の訪問で一番印象的だったのは、美術の授業を受ける教室に様々な国や文化の展示物があったことです。美術の先生によると、子供たちの想像力を刺激するため

だそうです。生徒の作品を見せていただきましたが、何かの枠に囚われず、自分の中にあるものを表現し、形のあるものにするのが上手だなという印象を受けました。

香港恒生大学での事業は、同学の Facebook で紹介されています。

<https://www.facebook.com/AS.SSC.HSUHK>